

NIKKOR 偏光フィルター

の使い方

このフィルターは、52mmのアタッチメントサイズをもつ焦点距離 24mm から 200mm までのF用ニッコールレンズに取り付けられます。

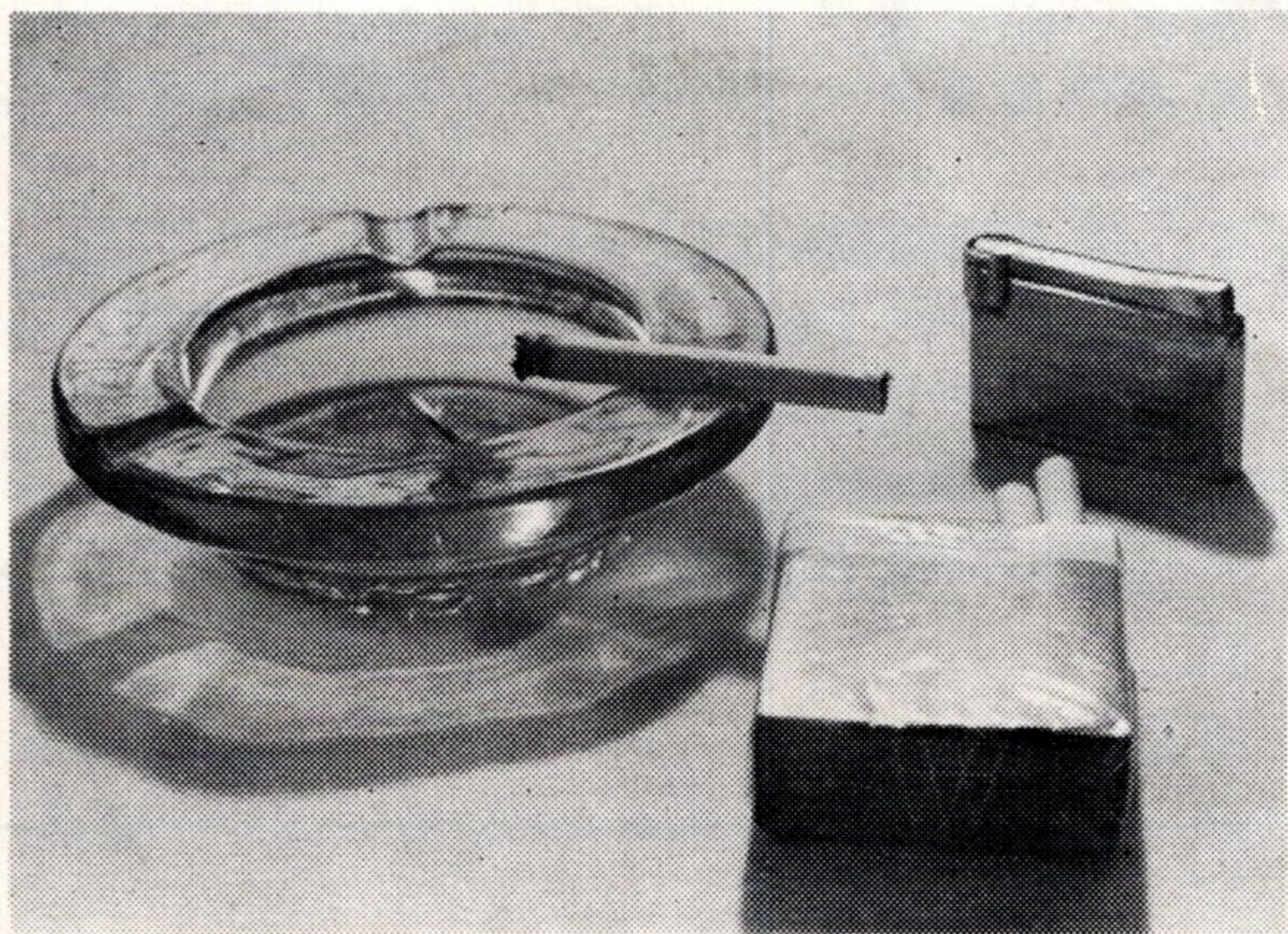
NDフィルターと同様、黑白およびカラー写真撮影の両方に効果のあるフィルターで、2枚の平行平面ガラスの間に偏光膜をはさんだ構造になっています。

1. 効果

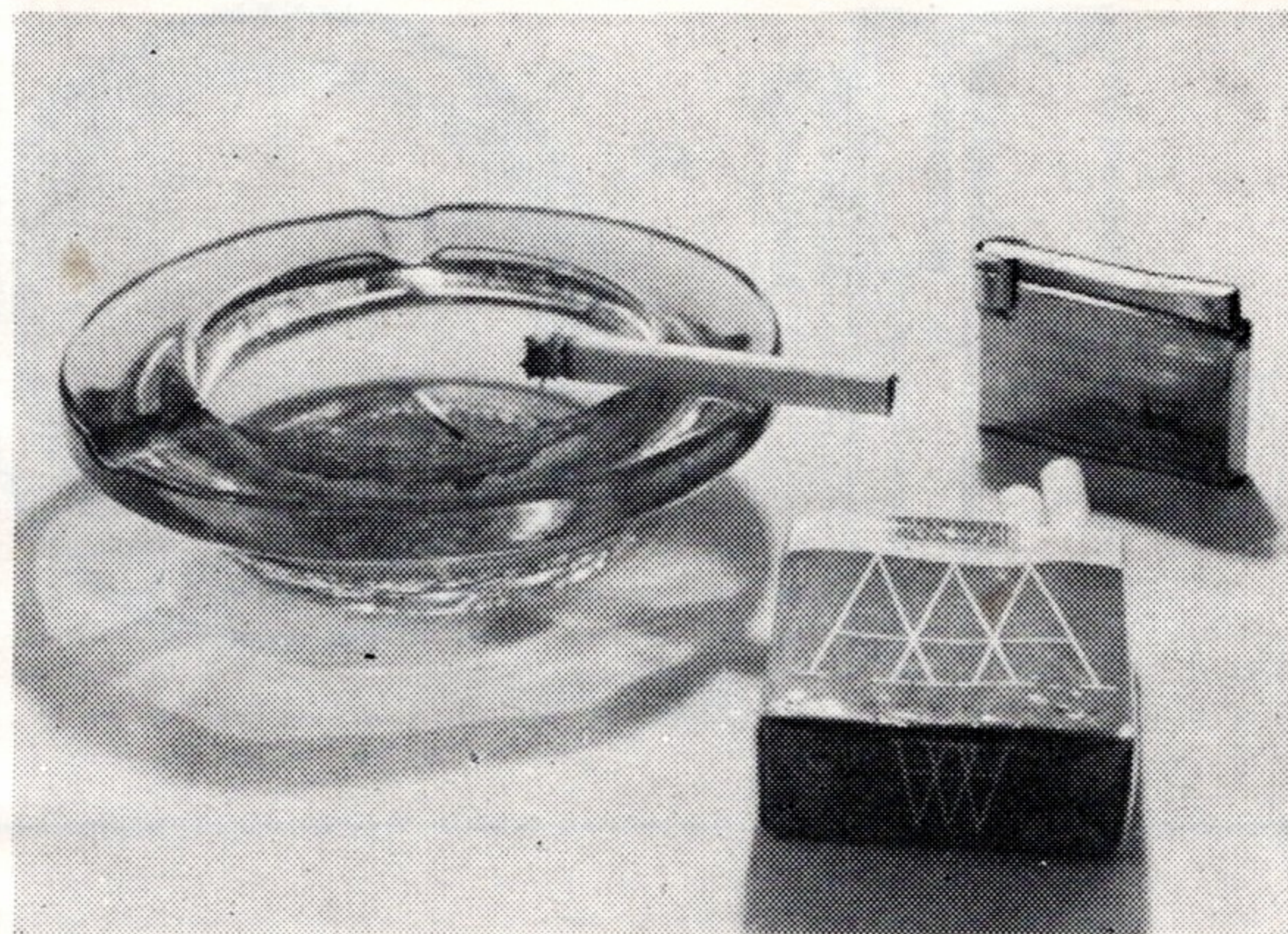
●非金属たとえばガラス、光沢のある木材、プラスチック、陶器、タイルおよび紙などの平滑なものの表面や水面から来る反射光は一般に偏光しているのです。こうした物質が透明でその内部や下にある物体を撮影する場合とか、物質面の質感を出すように撮影したい場

合などには、反射光を除いたり弱めたりすることができるこの偏光フィルターを用いると効果があります。

- 青空からの光は太陽光が空中で分散したものですからその方向によって程度の差はありますが一般に偏光しています。従って偏光フィルターは青空を暗くする効果があります。日の出、日没など太陽の位置が低いとき子午線上（真上と南北を結ぶ線に沿う）の空の撮撮に最大の効果があり、正午頃には地平線近くの青空に効果があります。太陽に向う方向やあるいは太陽を背にした方向の空には効果がありません。青空の明暗の調節は偏光フィルターの回転で自由に得られ、黑白写真では他の被写体のコントラストに関係なく青空だけを暗くおとして主題を強調することができ、またカラー写真でも同様に青空を適当に暗くする効果と共に、青空からの光による物体の反射光の色カブリを除去する効果もあります。



偏光フィルターを使用しない場合



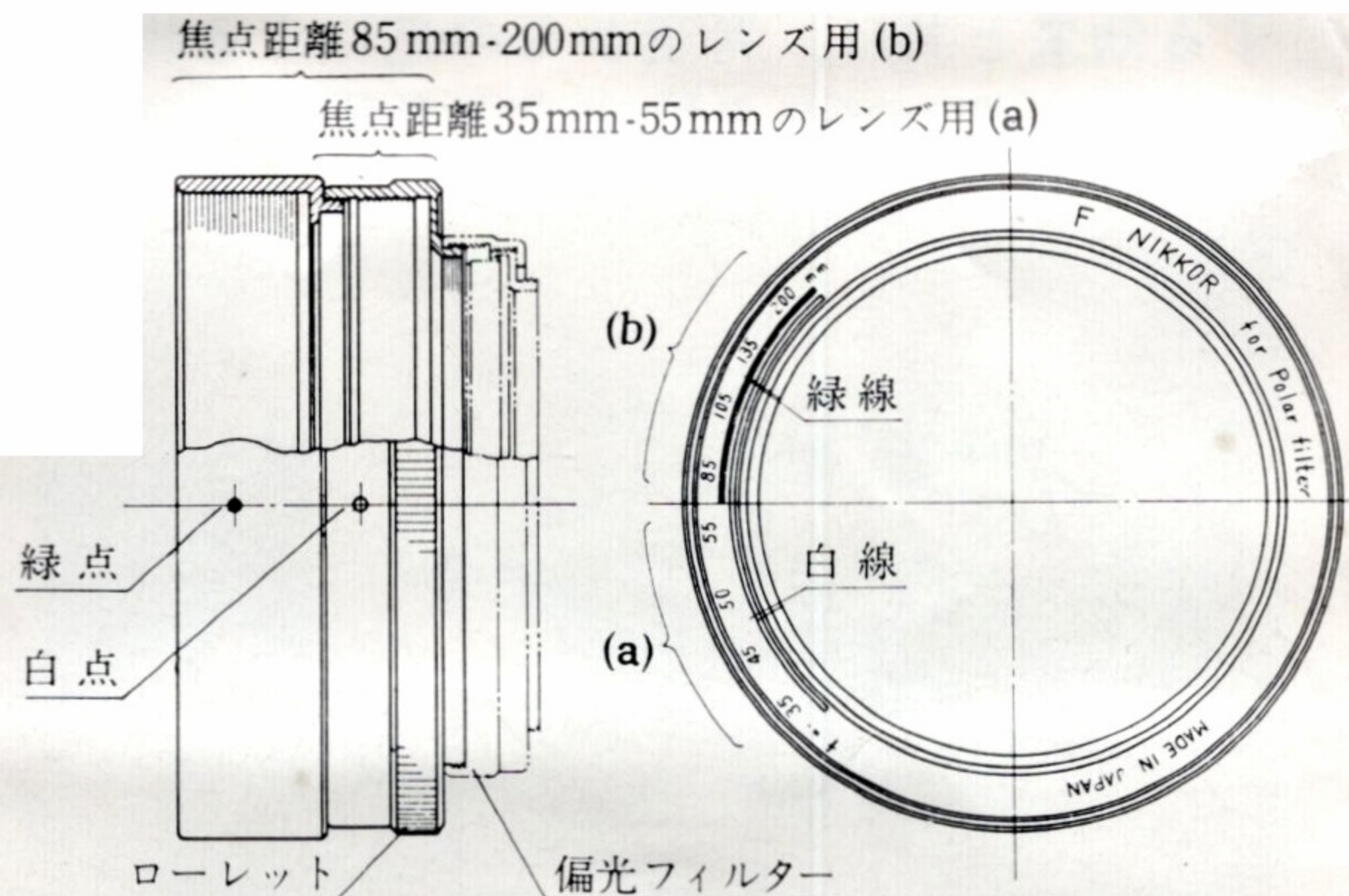
偏光フィルターを使用した場合

2. フィルターの取付け

- レンズ前端のアタッチメント用ねじに時計方向に止まるまでねじ込みます。
- カメラのファインダー像を見ながらフィルターの縁をもって回転し、反射光の軽減や除去に最も効果のある位置にします。
回転は180°（制限付）の範囲可能です。

3. 露出倍数

フォトミックFTNやニコマートFTNなどのTTL方式、露出計付きのカメラでは、偏光フィルターをつけても測光値がそのまま適正露出を示しますが、TTL方式でない露出計使用の場合は、偏光フィルターを用いることにより露出の増加（露出倍数）が必要になります。この露出倍数は被写体の反射面に対する撮影角度、光の波長、フィルムの感色性などにより異なってきますが、大体2～4倍ぐらいとなります。



偏光フィルター用フード HN-12 (別売り)

レンズの前に偏光フィルターを付けますと、このフィルターの前側ねじ径が大きい(60mm)ため、52mmのねじ径をもつ交換レンズ専用のフードは使用できません。

このフードは、偏光フィルター使用時に用いる専用フードで、焦点距離35mmから200mmまでの交換レンズに対して用いることができます。フードは2個1組になっていて、(図参照)

- 35mmから55mmまでの焦点距離のレンズに対しては側面に白点のあるフードだけを用います。(偏光フィルター前部にねじ込みます。)
- 85mmから200mmまでの焦点距離のレンズに対しては白点のあるフードに、更に緑点のあるフードを重ね合わせて使用します。(白点のあるフード端面の銘板はこれらのことを示しています。)
- 撮影の際偏光フィルターを回転させるには、白点のあるフードのローレット部をもちます。

注1. 焦点距離28mm以下のレンズに対しては、このフードはケラレを生ずるため用いることができません。

注2. 43～86mmのズームレンズでは、白点のあるフードを全範囲にわたって使用できます。